

# 学校教育評価 1 学期アンケート結果、及び 昨年度7月との比較

アンケート実施：令和元年7月（数字は%）

調査人数：全校 241 人（低学年 131 人・高学年 110 人）

保護者アンケート児童数配布 回答数 196 人（家庭数 177 戸）

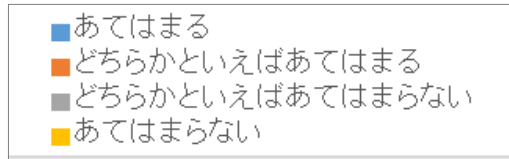
教職員 17 人

評価：A（あてはまる）

B（どちらかといえばあてはまる）

C（どちらかといえばあてはまらない）

D（あてはまらない）



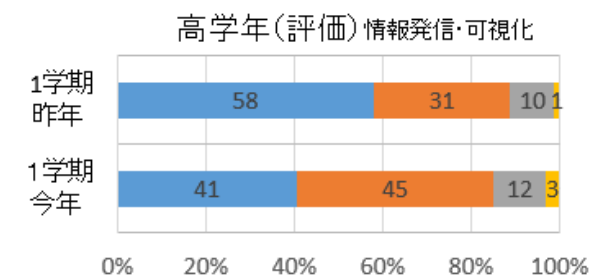
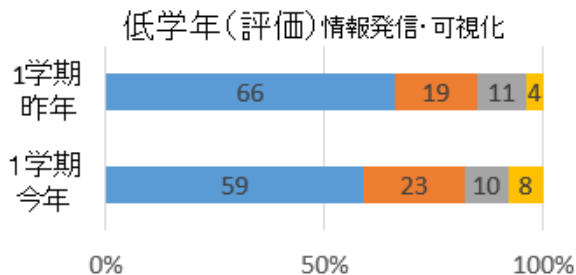
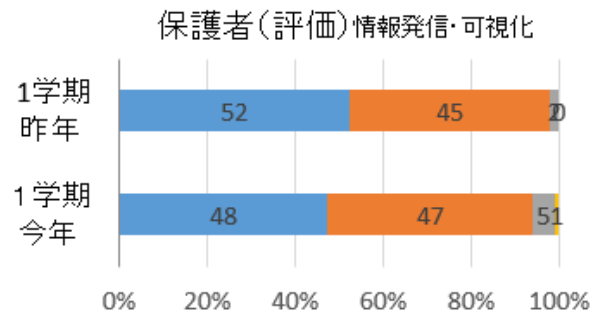
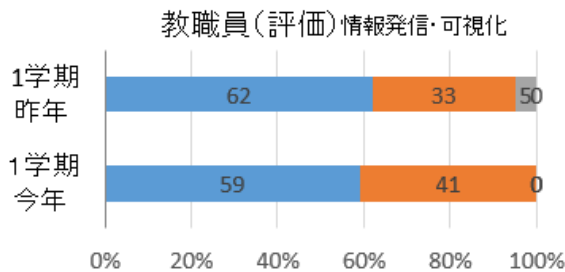
## 【開かれた学校づくり】

	学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。	%	A	B	C	D		達成状況
教職員	A：A+Bが90%以上 B：A+Bが70%以上 C：上記以外	問1	59	41	0	0	A	A
保護者	A：A+Bが90%以上 B：A+Bが70%以上 C：上記以外	問1	48	47	5	1	A	
児童	A：A+Bが90%以上 B：A+Bが70%以上 C：上記以外	問1	51	33	11	6	B	

**教職員** (問1) 学校からの家庭や地域への情報発信（学校・学年・学級だより、ホームページ、メールも含む）はよくできていると思う。

**保護者** (問1) 学校便り、学年便り、学校からの様々なお知らせ文書やメールなどにより、学校の様子がよくわかる。

**児童** (問1) 学校からのプリント類やさまざまな方法を通じて、自分が頑張ったことを家の人に見てもらっている。



学校・学年・学級通信やホームページの更新（各学年のページを毎月1回更新・校長室だよりを随時更新）、毎月15日の「学校行こう Day」をはじめとするオープンスクールの実施など、学校からの情報発信については積極的に取り組んできた。また、保護者向けの「安心メール」を有効に活用し、下校時刻の変更や行事のお知らせなどの連絡も適時行った。教職員、保護者のアンケート結果では本年度も評価A+評価Bの割合が90%以上あるので、積極的な情報発信ができたと考える。

児童については、評価A+評価Bの割合が高いものの90%には至っていない。校内での積極的な成果物の掲示を通して、友だち同士や保護者へのさらなる学習活動の可視化を図る。また、個々の頑張りをプリント類や個別懇談等を通じて家庭に積極的に知らせ、理解と協力を得られるよう進める。

**【生活指導】**

	家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。	%	A	B	C	D		達成状況
教職員	A : A+Bが90%以上 B : A+Bが60%以上 C : 上記以外	問2	6	65	29	0	B	B
保護者	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	問2	25	49	22	4	B	
児童	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	問2	59	33	7	2	A	

**教職員**

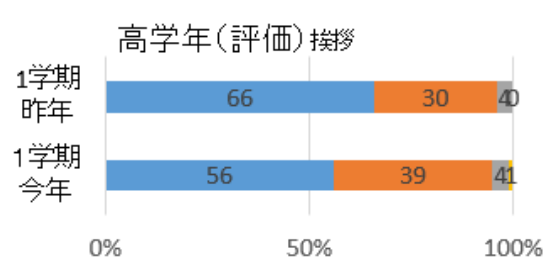
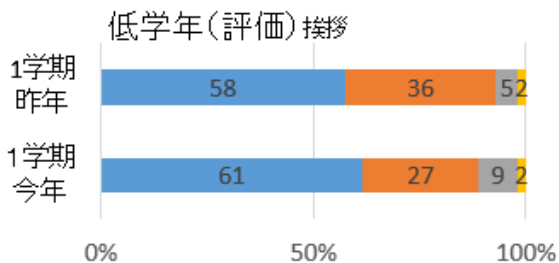
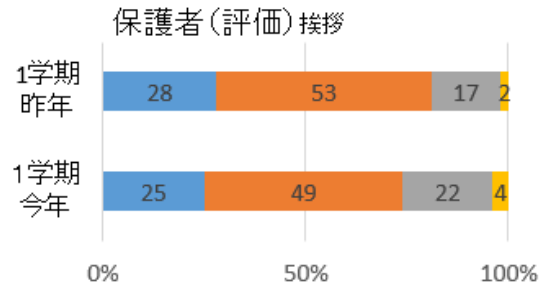
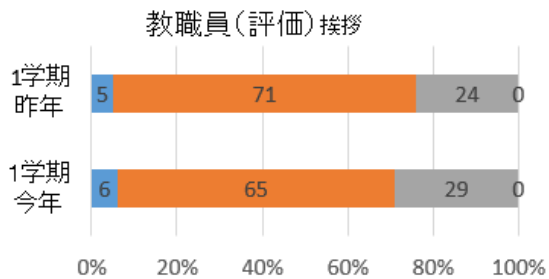
(問2) 子どもたちは、学校でも地域でも挨拶するようになってきた。

**保護者**

(問2) 自分の子どもは、家でも、学校でも、地域でもよく挨拶をしている。

**児童**

(問2) 家でも学校でも地域でも、自分から進んであいさつをしている。



〈挨拶について〉

評価A+評価Bについて昨年1学期と比較すると、全体的に挨拶について評価が少し下がっていることがわかる。朝の登校時の校門での校長先生との挨拶や教室入口での挨拶などは、比較的できているが、その他の場所や時間には、自発的な挨拶が少ない傾向がうかがえる。2学期以降の月目標の中で指導したり、委員会活動などにも取り入れることができないかを考えたりしながら、先に述べた時や場所以外でも、「いつでも、どこでも、誰にでも挨拶ができる中央っ子」を目指していく。また、日常生活の中で、自分の伝えるべき事柄が自分の言葉で相手にしっかりと伝えられるような場面を大事にする。

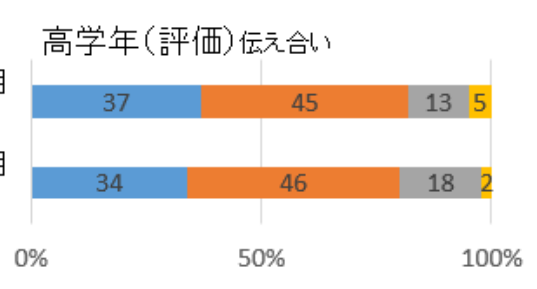
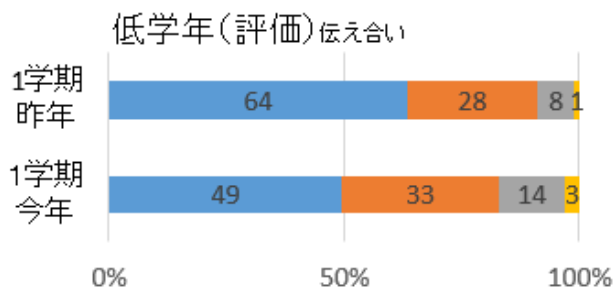
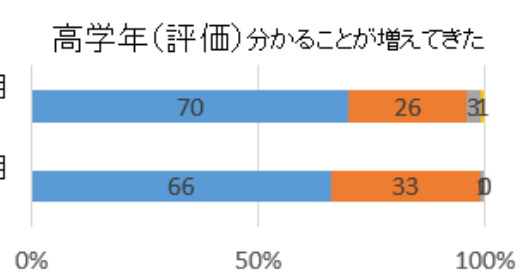
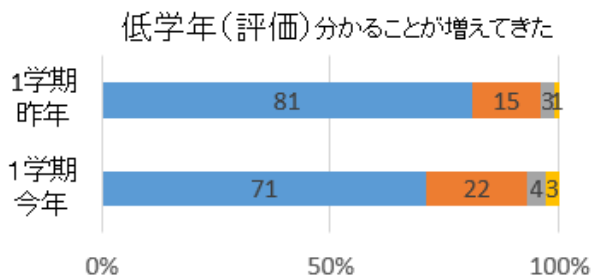
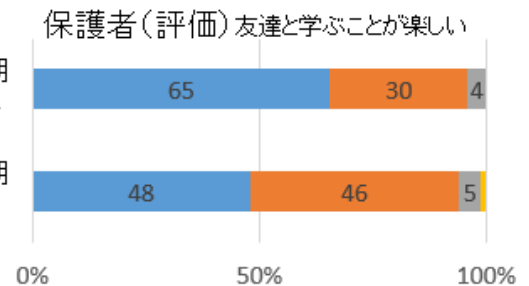
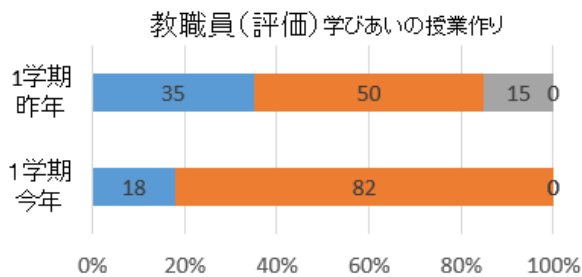
## 【学習指導】

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「聴き合い、対話し、学び合う学び」を通して、「分かった」「できた」と一人ひとりが実感し、学び続けようとする意欲を育てる。</li> <li>・協働的な学びを通して、一人ひとりのよさや個性を認め合い、共に学び合う集団作りに努める。</li> </ul>							達成状況	
教職員	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	B : A+Bが70%以上	問3	18	82	0	0	A	A
保護者	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	B : A+Bが70%以上	問3	48	46	5	1	A	
児童	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	B : A+Bが70%以上	問3 問4	69 42	27 39	3 16	2 3	A B	

**教職員** (項目3) 授業の中で、友だちの意見を聞いたり考えを伝えたりと、学び合いの授業づくりをしている。

**保護者** (項目3) 参観日などで、自分の子どもは友だちと学ぶことを楽しんでいる。

**児童** (項目3) 勉強をしていて、少しでも分かることやできることがふえてきた。  
(項目4) 友だちの意見を聞いたり、自分の思いを伝えたりすることができた。



〈「分かった」「できた」と実感、学ぶ意欲について〉

「勉強をしていて、少しでも分かることやできることがふえてきた。」と答えた児童は、評価A+評価Bで90%以上あり、昨年度に引き続き多かった。保護者も、教職員も高い評価である。日頃から、児童一人ひとりを大切にして、授業づくりを行ってきた成果であると考えられる。今後も児童の実態に合わせて「分かった」、「できた」と思える授業の工夫改善をしていく。

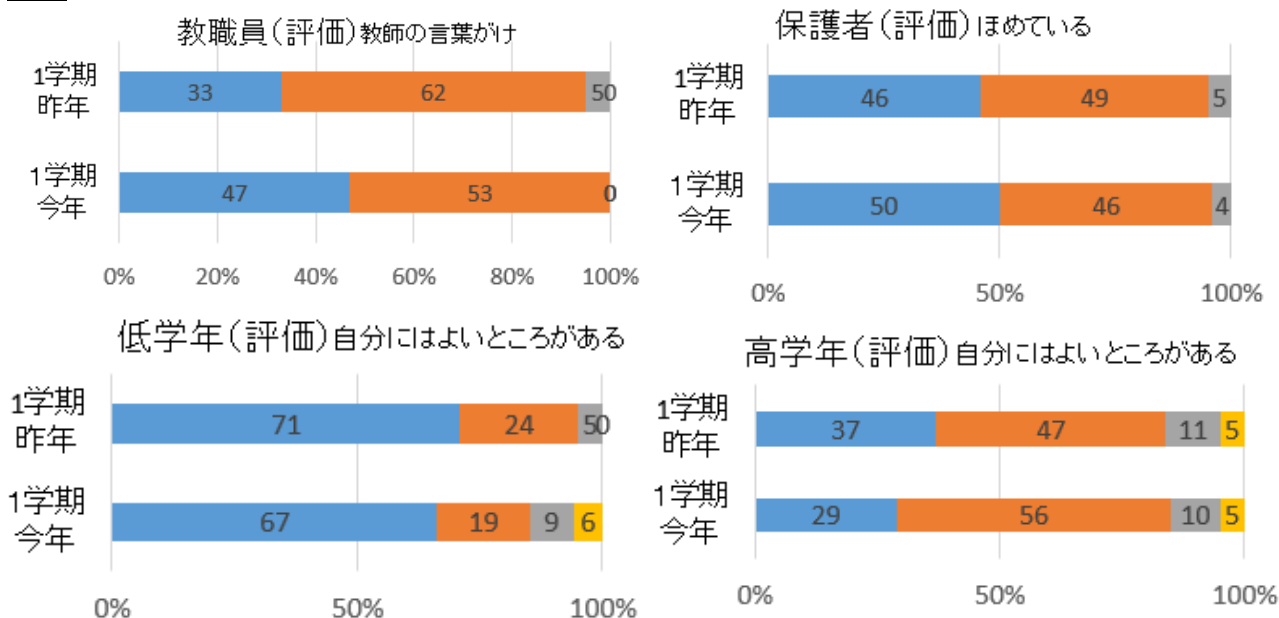
〈学び合いについて〉

「友だちの意見を聞いたり、自分の思いを伝えたりすることができた。」と答えた児童も多く、子ども同士で意見をつないだり、課題解決を行ったりしている楽しさを感じていると思われる。しかし、児童の評価A+評価Bは、80%ほどにとどまっているので今まで以上に子ども中心に据えた授業の中で他者とつながった面白さを感じられる授業づくりを行っていく。また、友だちとつながって課題に向き合おうとする経験を積み重ねることで、子どもたち一人ひとりの力が付き、友だちの良さに気づいたり、自分に自信が持てたりする子の育成に今後も努める。

【人権教育】

	全領域における指導を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を高め、自立向上する子どもを育てる。	%	A	B	C	D		達成状況
教職員	A: A+Bが95%以上 C: 上記以外	問4 問5	47 12	53 82	0 6	0 0	A B	B
保護者	A: A+Bが95%以上 C: 上記以外	問4 問5	50 53	46 43	4 3	0 1	A A	
児童	A: A+Bが95%以上 C: 上記以外	問5 問6	49 39	36 44	9 14	5 3	B B	

- 教職員 (項目4) 子どもの伸びを認める(以前のその子と比べて)言葉かけの質の向上に努めている。
- 保護者 (項目4) お子さんのがんばりやよいところをほめている。
- 児童 (項目5) 自分にはよいところがある。



〈自尊感情について〉

教職員・保護者ともに、子どもたちに褒めることなど肯定的な評価をすることを意識している。しかし、昨年度同様、高学年になるにつれて、自尊感情が下がる傾向が見られる。(評価A+評価Bが低学年86%→高学年85%) 学習内容が段階的に難しくなり、自分に自信が持てない子どもたちが増えてきていると考えられる。そこで、子どもたちを多面的に見ることを心掛けながら、良いところや少しでも改善が見られところを見つけ、褒めながら自信を持たせる指導を継続していく。

教職員

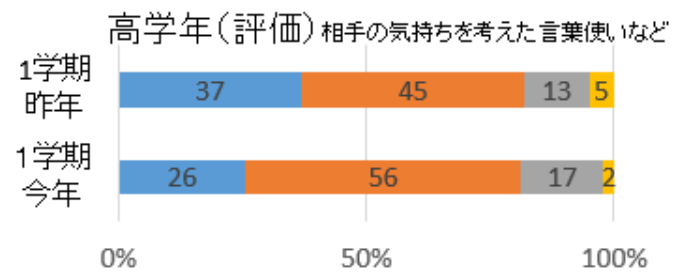
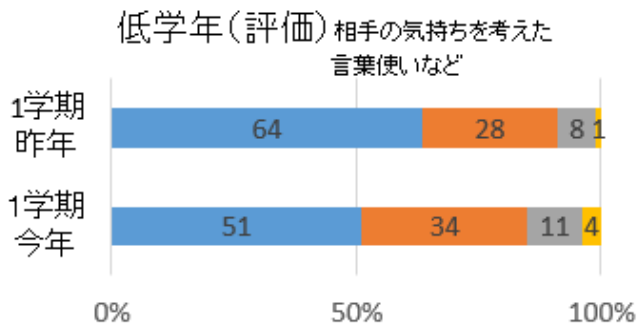
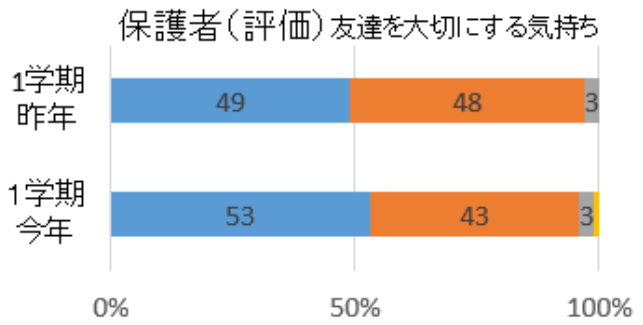
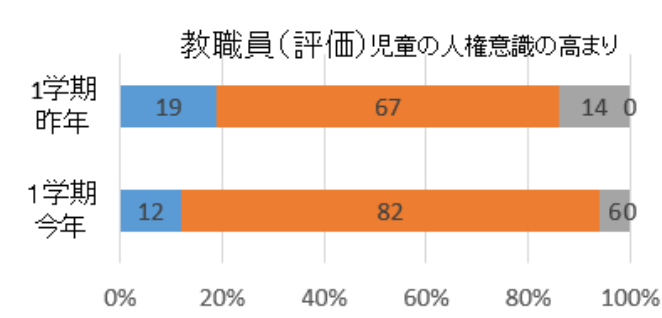
(項目5) 児童の人権感覚や人権意識が育ってきている。

保護者

(項目5) お子さんは、友だちを大切にすることが育ってきている。

児童

(項目6) 相手の気持ちを考えた行動・声かけ・言葉づかいができています。



〈人権意識について〉

教師や保護者の目から見た子どもたちの様子は、人権意識が育ってきているように感じている。日々の生活指導や人権意識を醸成するような学習指導の積み重ねの成果である。しかし、子どもたちの中では高学年になるにつれて相手の気持ちを考えた行動・声かけ、言葉遣いができていないという結果になっている。思春期を迎え、人間関係が複雑化するにつれ、相手を思いやる気持ちを持つ心のゆとりが持てない状況が出てきているかもしれない。あるいは、友だちのことは思っているが、なかなか行動に移すことができない子どもが増えてきているのかもしれない。常に、今の自分の言葉を相手がどうとらえるのかを考え、自分の言葉を振り返ることや相手を思いやるためにどう行動したらよいのかを考えさせるよう声かけをしていく。そして、人とつながる心地よさを感じられるような認め合える学級づくりをすることで、人権意識を高められるよう努める。